

# 口腔内に皮膚腫瘍?!-ウサギの毛芽腫-

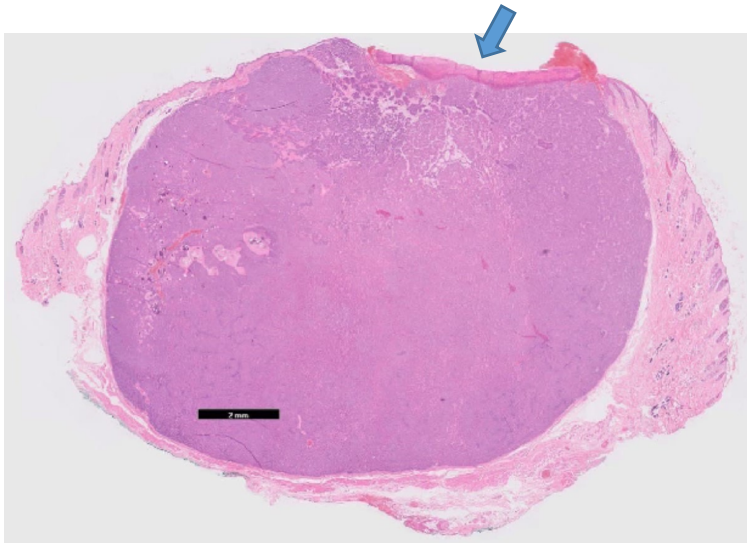


図 1. 組織写真。真皮～皮下組織に境界明瞭な結節が形成されています（図上が皮膚側、図下が皮下側）。表面は潰瘍化して出血しています（矢印）。

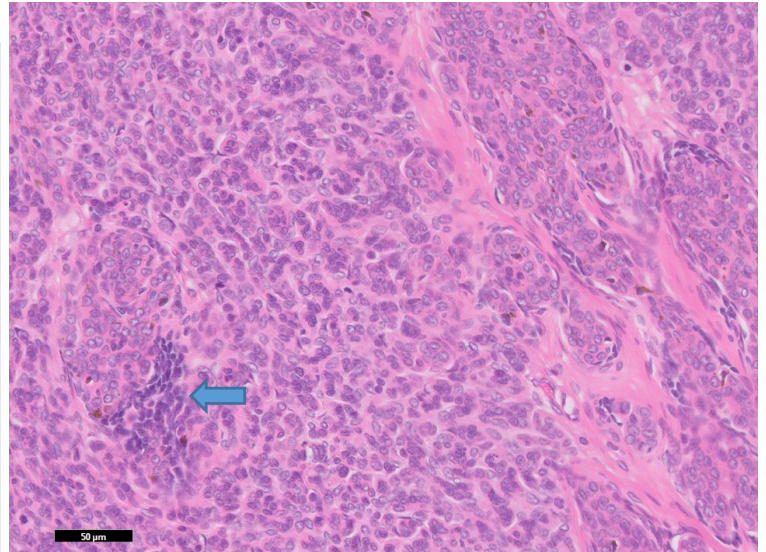


図 2. 組織写真。線維性間質を伴い、基底細胞様上皮細胞が索状～リボン状（図左）、小柱状～胞巣状（図右）に増殖しています。（矢印：毛球様構造）。

毛芽腫は、毛芽への分化を示す良性の皮膚腫瘍です。かつては基底細胞腫と混同されていました。毛芽腫は犬猫でよくみられ、馬では珍しく、他の動物では稀とされていますが、ウサギでは皮膚腫瘍で最も多く、約20-35%を占めます。孤発性の腫瘍として体表のどこにでも発生しますが、頭頸部に比較的多くみられます。

組織学的には、犬猫と同じく、真皮から皮下組織に形成され（図1）、線維性間質を伴って、基底細胞様の上皮性腫瘍細胞が、小柱状、索状、リボン状、小葉状に配列して増殖します。毛球様の構造がみられることもあります（図2）。

通常は完全切除により治癒します。一般にゆっくりと成長しますが、巨大化して自潰したり、ごく稀に浸潤性を示すこともあるので、小さいうちの切除が推奨されています。

タイトルにもあるように、ウサギの口角の解剖学的特徴（図3）から、あたかも口腔内腫瘍として毛芽腫が切除されてくることもあります。



図 3. 健常なウサギの肉眼写真。ウサギは口の横幅が小さく口角が奥まっているため、有毛部皮膚が口角の奥の方まで続いているのが分かります。（写真提供：Instagram @fuku\_kurumi\_mitarashi）

## 診断医からの一言

無断での転用/転載は禁止します。

初回は大好きなウサギを取り上げました。プライベートSNSつながりのうさ友さんにあくび写真をご提供いただきました。日々の診療でウサギの口を診ても、じっくり観察する余裕はなさそうに思い、ご参考いただけたらと思います。また、最近ではウサギの回顧的研究の報告が増えていて、個人的に熱いです！

## 参考文献

1. Tumors in Domestic Animals, 5<sup>th</sup> ed. 2017. Wiley-Blackwell.
2. Kok MK et al., J Comp Pathol. 2017;157(2-3):126-135.
3. Bertram CA et al., Vet Pathol. 2021;58(5):901-911.
4. Baum B. Vet Pathol. 2021;58(5):890-900.



診断医：中嶋 朋美  
DVM, PhD, DJCVP